

教員名	増田 正	所属学科	地域政策学科
<p><b>【ゼミでは何を学ぶのか】</b></p> <p>政治学のゼミです。とくに選挙関連と地方議会を中心に勉強しています。ゼミでは、群馬県選挙管理委員会の選挙啓発事業に毎年参加しています。三扇祭での模擬投票、若者リーダー研修への参加、公開討論会の開催サポートなど、地域の政治課題に実践的にかかわっています。18歳選挙権の導入によって若者への期待がいつそう高まっており、若者が自主的に活躍する姿はマスコミからも注目度、抜群です。</p>			
<p><b>【どのように学ぶのか】</b></p> <p>ゼミの時間内での勉強（座学）と、課外活動（投票啓発）に大きく分かれます。3年生では、ゼミの時間内に、政治学・行政学の教科書から、それぞれが興味をもっているテーマを選んで内容をまとめ、パワーポイントで報告してもらい、全員で討論をしています。内容をまとめ、深く掘り下げ、お互いに教え合うことで、プレゼンテーションの技術も身につけ、内容的な理解も深まります。</p> <p>課外活動は、継続して実施しているものと、リクエストに応じてその都度、単発的に実施しているものに分かれます。まず、継続しているものには、11月初旬の三扇祭での模擬投票があります。架空の県知事選、市長選などを設定して、実際の候補者が立候補しているかのように選挙戦を戦い、来場者に投票をしてもらっています。結果はSNSで発信しています。</p> <p>群馬県選挙管理委員会主催の選挙啓発事業への参加も、形を変えながら2010年から継続しています。希望者は選挙啓発チームに加わり、若年層への選挙啓発事業の企画・運営などを行うことができます。</p> <p>国政選挙、県知事選挙、市長選挙などの重要な選挙では、選挙啓発活動はもちろん、各地で実施される公開討論会の運営サポートをしています。地域団体からの呼びかけに応じて、様々な主催者教育にも携わっています。2017年からは「ぐんまシチズンシップアカデミー」に参加し、群馬県議会を傍聴・見学し、議員と意見交換しています。</p> <p>4年生は、基本的には「個人作業」で卒業論文を作成しています。しかしながら、いざ卒業論文作成となると、興味があるとか、地元だからとかいった「個人的な動機」からスタートしがちですが、正しいとは言えません。テーマの設定には、「みんなの視点」（公共性）が必要です。たとえ自分の卒論であっても、知識を継承してさらに発展させていくため、下調べ（先行研究の調査）が必要です。また、すでにわかっていることや、どのようにしてもわからないことは、改めて調べる意味はありません。</p> <p>卒論は毎回順番に中間発表をしてもらいながら、12月21日頃の提出日に向けて、完成度を徐々に高めていきます。また、冬休み後は、2月初旬の卒論発表会に向けて、パワーポイントでプレゼンの準備をしています。完成した卒論は「ゼミ卒論集」として冊子にまとめています。ぜひ大学図書館をご覧ください。</p>			

**【学んだことはどのように生かせるのか】**

公務員になるためには、政治・行政の幅広い知識が必要です。選挙実習（インターンシップ）を通して、早めに県庁や市役所で経験を積めることは魅力です。公務員になりたい学生にとっては役に立つゼミと言えます。また、テレビ、新聞等の取材がかなり多く、結果としてマスコミ業界に就職するゼミ生も増えてきています。

対外的な折衝を通じて、実践的なコミュニケーション能力が訓練されるため、ゼミ活動に主体的に取り組めば取り組むほど、積極的な人材に変われると言えます。ゼミでは、各自に役割が与えられるので、ポジションに応じた責任感と企画力が自然に訓練されます。民間企業では、金融機関への就職が比較的多いようです。

**【おすすめの入門書・基本テキスト】**

①『地域政策学事典』（勁草書房）

地域政策学部って何だろうという人は、まずこの本からどうぞ。

②水島治郎『ポピュリズムとは何か』（中公新書）

世界に蔓延するポピュリズムの基本がわかる一冊です。

③庄司克宏『欧州ポピュリズム』（ちくま新書）

ポピュリズムが蔓延しても、EUは必ずや生き残ると信じられる一冊。

**【まだ見ぬ君へのメッセージ】**

大学では、すぐに答えのわからないものや、答えが必ずしも一つに決まらないものなども扱います。すぐに答えを決めつけ、それで満足するのではなく、いったん下した結論でも本当にそれが正しいのか、繰り返し検証し続ける慎重な姿勢が必要です。

「絶対そうだ」という確信が単なる思い込みであることも少なくありません。大学に入ったなら、まずは君の「常識」を疑ってみませんか。